

## (1) 神戸市のこれまでの合流改善のとりくみ

- 神戸市では合流式下水道からの未処理放流水問題に対し全国的にも早い昭和 57 年から、積極的に取り組んできた。
- 現在の対策は、主に雨天時にポンプ場や処理場からの汚水流出を抑制・低減することを目的としており、これまでに、下記に示す対策施設の整備が完了したところである。

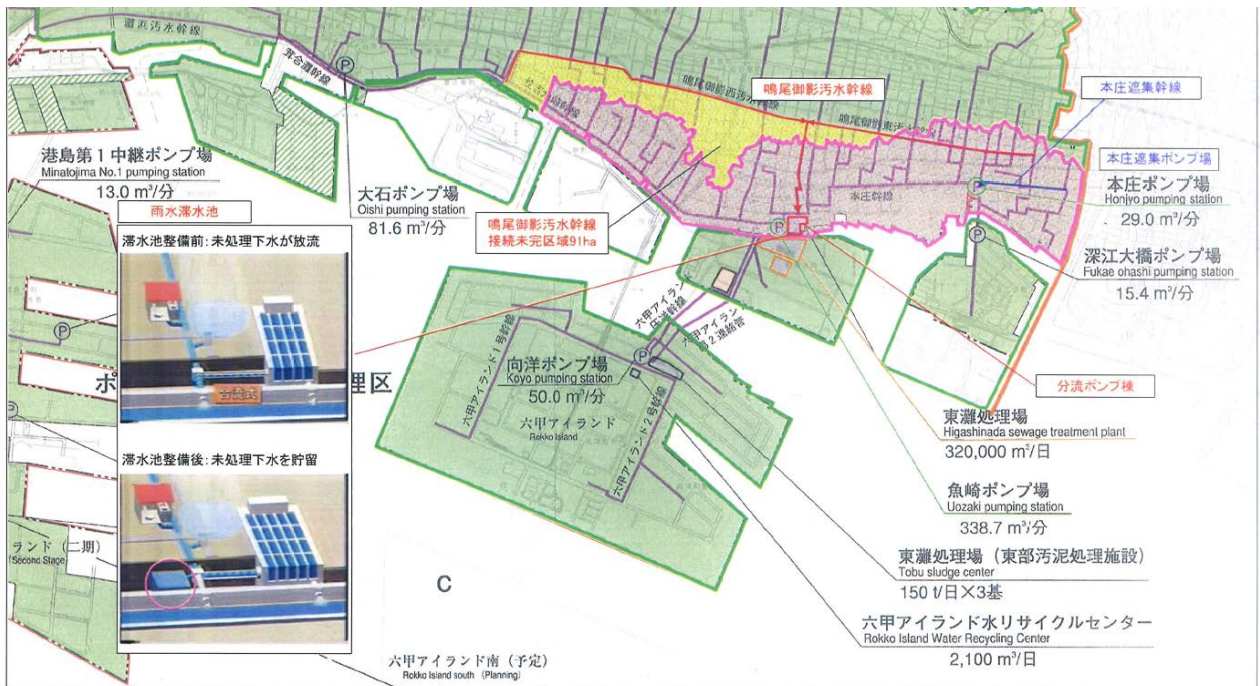
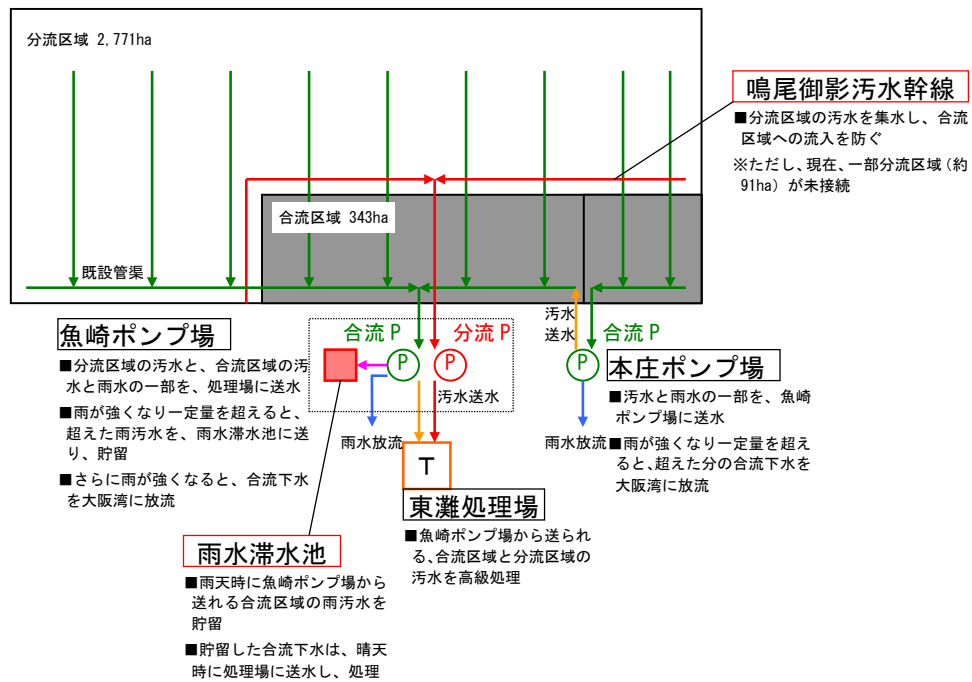


図1 東灘処理区の概要と合流改善対策の状況

## (2) 改善目標と対象施設

- ポンプ場や処理場からの年間放流状況（水量、負荷量、未処理放流回数）を把握するため、代表降雨（1999年降雨）による年間雨天時水量・負荷量解析を行っている。
- なお、現時点までの対策（流域分離、滞水池整備）効果を把握するため、現状に加え、対策前の状況についても、年間放流状況を整理している。
- 計画汚水量については、大阪湾流総に対応したものとなっている。
- 算定した水量・負荷量について、合流式下水道改善対策指針と解説で「10年以内に達成する当面の目標」として位置付けられている以下の改善目標について、対策が完了している。

### 【当面の改善目標】概ね10年間（～H25）で達成

#### 「合流式下水道改善対策指針と解説」

- ① 汚濁負荷の削減 : BOD 排出負荷量を分流式下水道と同程度とする
- ② 公衆衛生上の安全確保 : 全ての雨水吐きにおいて未処理放流回数を半減させる
- ③ きょう雑物の削減 : 全ての雨水吐きにおいてきょう雑物の流出を極力防止する

#### 「放流水質基準への対応」（「①排出負荷量 分流式並み」と同義）

- ④ 下水道法施行令 : 合流式下水道からの雨天時放流水質 BOD 40mg/L 以下（経過措置として10年間はBOD 70mg/L 以下）
- ⑤ 一律排水基準 : 処理場・ポンプ場からの日平均（降雨平均）放流水質 BOD120mg/L 以下 ※年間の全降雨が対象 吐口毎で評価

- 現在の計画では、他の施策とも合わせ、雨水滞水池 30,000m<sup>3</sup> に雨水を貯留することとし、これにより当面の改善目標を全てクリアできることになっている。また、その際の滞水池への必要送水量は 6.0m<sup>3</sup>/s (21,600m<sup>3</sup>/h) となっている。送水量が 6.0m<sup>3</sup>/s よりも小さい場合は、流入雨水に対して直接放流する雨水の比が大きくなるため、放流水質基準の達成が困難となる。このため、滞水池送水管の移設・改築時の能力は 6.0m<sup>3</sup>/s 以上を確保することが必要となり、滞水池送水ポンプについても 6.0m<sup>3</sup>/s 以上の能力が必要となる。